

令和５年度 指定管理者モニタリング報告書

|                                |                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 施 設 名                          | 加東市産地形成等促進施設・道の駅とうじょう                                                                                                                                                 |
| 施 設 所 在 地                      | 加東市南山１丁目５番地３                                                                                                                                                          |
| 指 定 管 理 者                      | 名 称 株式会社 夢街人とうじょう<br>代表者<br>住 所 加東市南山１丁目５番地３                                                                                                                          |
| モニタリング<br>の 実 施 方 針<br>・ 方 法 等 | 本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、<br>実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握し<br>た。<br>次のとおり、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントし<br>たうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた<br>考え方」を記載した。 |
| 担 当 課                          | 産業振興部 商工観光課 電話 ０７９５－４３－０５３０<br>担当者氏名 竹内 誠彦・新地 翔太                                                                                                                      |

## １ 総合コメント

施設内は清掃が行き届いており、適切に管理されている。利用者アンケートの結果からも、スタッフの顧客対応や、事業及び施設管理の内容について支持する声が大半であり、全体として良好な運営がなされている。

特産館は、新聞や近隣道の駅の視察等で得た知見を活かした新規仕入先の開拓や、山田錦の特Ａ地区である強みを活かして山田錦を原料とした酒類販売を強化することで、酒類の売上は対前年度比１０１．５％を達成した。

農産物直売所は、直売所売上の柱の一つである早期黒枝豆の育成不足の情報を得て、新品種「ひかり姫」の生産者の新規登録を行い、商品を確保した結果、１０月の売上が前期比１０５．０％と伸長した。また、下期のいちごの育成不足が影響し、地元生産者団体コスモス会の売上は、前期比９８．４％と前期実績には届かなかったが、当期は生産者加工品が増加し、加工品類部門の売上が前期比１１１．６％と大きく伸びた。

コンビニは本部のシステムをうまく活用し、利益率の高い新商品をより多く陳列するなど売り逃しの少ない精度の高い売り場づくりに尽力した。また、発注タイミング等の工夫を行い、廃棄率については目標値である４．０％以内に収まった。

引き続き、特産館、農産物直売所では、新規仕入れ業者の開拓や生産者の獲得等により取扱商品の充実を願う。特に、農産物については、売り上げの核となるいちご、ぶどう、桃を加東市ブランドとして更にＰＲしていただきたい。

利用者アンケートの結果、利用者の約２５．０％が市内在住者であることから、当該施設が地元生産者と地域の顧客から支持されていることが分かる。

また、大阪府をはじめ県外在住者も約２５．０％程度占めており、施設満足項目についても地元特産品が豊富で安いという声が６割近く占めていることから、地場産品の流通を通じた地域活性化を実現している。

今後とも適切な指定管理業務を遂行していただきたい。

## ２ 今後の改善に向けた考え方

特産館、農産物直売所では、新規仕入れ業者の開拓や生産者の獲得等により取扱商品の充実を継続してほしい。

農産物については、売り上げの核となるいちご、ぶどう、桃を加東市ブランドとして更にＰＲしていただきたい。

### 3 業務の履行状況について

協定書・仕様書で定められた項目について、適正に履行できている。

### 4 サービスの質について

利用者アンケートによると、職員の接客態度や事業内容についての評価は良好であった。一方で、昨年度に引き続き、駐車場やトイレについて、改善要望があがっている。

駐車場については、満車対応時の看板設置や繁忙期における駐車場への警備員の配置を行い、駐車場のスムーズな運営や混雑による事故防止などに努めており、引き続きサービスの向上に取り組んでいただきたい。

トイレについては、トイレ数が不足することがあるという声が多く、現在、市、兵庫県とも協議してトイレの増設に向けた工事を実施する計画である。

利用者アンケートの改善点を踏まえ、引き続き関係機関と連携しながら、満足度が低い取り組みの改善を行いながら、運営いただきたい。

### 5 収支状況等について

農家や食品業者との取引について、従来は仕入と売上を計上していたが、インボイス制度の導入に伴い、当期4月より、委託の仕入先については受託販売手数料（利益）のみを売上として計上することにしたため、売上高の減少となった。

計上方法について、変更前に置き換えた場合、特産館の売上は前期比97.5%、農産物直売所の売上は前期比98.5%と減少したが、コンビニについては、前期比103.1%、全体で100.6%と微増となっている。

新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5類感染症へ移行してから1年が経過したが、物価高や円安、エネルギー価格の高止まりなど、厳しい経営環境が続いている。

今後も市場変化に対応した取組や事業の提案に取り組んでいただきたい。